

2021年12月13日(月)
学部ゼミゲスト意見交換会感想レポート
関西経済同友会経済政策委員会
角元委員長、岸副委員長、桐山委員、益戸委員ほかさま



2年生

1. 今回のお話を聞いて思ったのは、そもそも本当に成長は必要かということだ。今ある分を効率よく配分することも重要であると思う。特に社会保障費だけが年々増加しているとなると、人口減が続く以上、他の政策に大きな効果は見受けられないように思う。我々はバブル期を経験していないため、経済成長の良さが分からないのかもしれないが、それはそれでいいのではないか。バブルがなくとも、これまで成長してきたのだから、現状で国民生活を豊かにすることも不可能ではないはずだ。
2. 先日は貴重な意見交換の機会をいただきありがとうございました。インフラ投資に関して、「攻め」の政策を見出すことは難しいのではと思っていましたが、新産業（例えば水素自動車や電気自動車の充電設備が整っていないことなど）におけるインフラ投資の余地は想像以上にありそうだと感じました。参考資料にて日本が諸外国に遅れている様々な統計資料が紹介されていましたが、世界をリードし続ける日本であれるよう、日本の成長に将来ぜひ貢献したいと思いました。
3. 本日は貴重なお話をしていただきありがとうございました。日本の経済が停滞しているというイメージは持っていましたが、それを示すグラフを見たのは初めてだったので、改めて日本が成長するための政策を考える重要性を実感しました。また、今まで自分の成長という視点で将来のことを考えていましたが、日本の成長という、より大きな視点で仕事を選ぶことで選択肢も広がると感じました。これからもっと視野を広げるため、日々の研究に努めたいと思います。
4. 先日は貴重な機会を作ってくださいありがとうございました。また、我々の論文へのフィードバックもありがとうございました。
5. 私自身、研究開発費や人材投資の低さには問題意識を感じていたもので、企業と政府による未来への投資という提言の方向性に共感しながらお話を聞かせていただきました。あまり財政に関する知識がないので恐縮ですが、コロナ禍で財政赤字が拡大している中で、財源はどうするのか疑問に感じました。また機会がありましたらよろしくお願いします。
6. 本日は貴重なご講演ありがとうございました。我々学生の身分として、経済同友会という社会を実際に動かしている方々のお話を伺ったり、議論したりすることは大変貴重で、勉強になりました。特に、我々が考えた政策提言に対する、実際の事業者の方々の意見は大変参考になりました。ですが、より少人数で、より具体的な議論が出来たらより意見を出しやすかったのではないかと思います。改めまして、本日はどうもありがとうございました。
7. 日本の人材育成に投資している額の割合が他の国と比べて低いことをヒシヒシと感じました。また、少子高齢化で子どもの数が減っていっている中、一人一人が生産性を上げて今後の日

本を発展させていく必要があり、そのためには、どのようにしたら良いのかを常に意識すべきだと思いました。政策学科に所属している僕たちがアイデアを出し、人と議論することで、ブラッシュアップし、実行に移し、より良い日本を築いていきたいです。

8. この度は貴重な機会をいただき、ありがとうございました。失礼な感想であることは承知していますが、今回の意見交換会を通して様々な企業の上層部が中高年の男性ばかりで構成されていることを改めて実感しました。少数派も声を上げれば届くことがあると意見交換会の中でもお話があったかと思いますが、やはり意思決定層が多様性を反映させる意思を持たなければ社会全体には反映されないのではないかと感じました。
9. 今回は、貴重な機会を頂いてありがとうございました。関西の経済界に大きな影響力を持つ同友会との意見交換会は、それだけでも自分にとって大きな刺激となりました。また、同友会の方々が若者の意見に真摯に耳を傾けてくださっている姿を見て、このような若者に寄り添う大人もいるのかと大変嬉しく思いました。また、今後の日本の諸問題を解決するには私たち若者が当事者意識を持つ必要があるというお言葉は非常に胸に響きました。今後は我々若者世代が主体的に問題を解決していくという意識を持とうという思いが強まりました。今回はありがとうございました！
10. 日本の若い人たちのことを考えてくださっていることが非常に伝わってきました。未来に投資するというのは当然に重要なことだと思います。その前提の元、お金をどこにかけるか(何に投資するか)という問題が1番大きいように感じました。しかし、お金をかければそれで解決できるのかも疑問に感じました。何か別の要因をこれからも考えていきます。最後に、私は、治安のよい(お財布を落としても戻ってくる)日本がとても好きです。それもあって、絶対に没落させたくないという気持ちが強いので、来年、日本をより良くできる政策論文を執筆できるように頑張ります。

3年生

11. 私たちの発表について、現場で働いている方からの視点で講評をいただけ、私たちの研究をブラッシュアップする非常によい機会となりました。また、経済同友会の方々が提言されている政策の中でも、特に「人」への投資に興味を持ちました。リカレント教育をはじめとする人への投資は今後必要性が増すという認識はありますが、現状そのような時間的な余裕がない人が多いように感じます。そのため、働いている人々や企業の意識や働き方を変える政策がまず必要になるのではないかと感じました。
12. この度は意見交換会を開催して下さいまして誠にありがとうございました。若い世代が日本の社会問題に対して当事者意識を持ち、その解決に取り組んでほしいというメッセージが強く印象に残りました。しかし、個人的に思うことは、実生活への実害や研究テーマなどのき

かけがなければ社会問題について深く考える機会は少ないと感じます。日々の生活に精一杯な人にとって社会問題を考える余裕はなく、ましてやその解決に取り組むことは非常にハードルの高いことだと思います。30年間低成長が続く中で現役世代の負担だけが増える未来は、過去から引き継がれた負の遺産です。問題の解決を先送りにすればする程明るい未来が待っていないと分かっているにもかかわらず、その原因が自分達ではなくどこか他人事と捉えているため、いつまでたっても若者は社会問題に関心を持たないのではないかと考えます。

13. 関西経済同友会の皆様、講演を開催していただきありがとうございました。論文に足りていなかった点、これから社会に出るにあたって必要な考え方、関西経済同友会の活動内容などが分かり、非常に有意義な時間となりました。特に、桐山様からいただいた、提言が現状を考慮できていないという意見については、これからの活動において改善しようと思いました。改めて、貴重な機会を設けていただき、ありがとうございました。

4年生

14. 本日はお忙しい中お越しいただきありがとうございました。本日のように、若年層と大人の方が交流し、意見を交わす機会は非常に重要だと感じました。少子高齢化に伴う社会問題は、年金問題、投票率、税金、など多岐に渡ります。それらを解決するにあたって、日本では高齢者と若年層の分断がしばしば見受けられます。私も正直なところ、祖母の考え方や社会に対する姿勢に疑問を抱くこともしばしばありますし、そういったことがいたるところで発生しているように感じています。そのような中、若年層と大人が個別に問題解決に取り組むのではなく、一体となって解決策を模索する本企画は非常に有意義でした。1回きりではなく、今後も様々な若年層と交流していただけますと幸いです。本日はありがとうございました。
15. この度は貴重な機会をいただき誠にありがとうございました。現在の経済界を牽引している皆様が感じている問題意識と若者に対して抱いている思いを共有していただいたことが、個人的には非常に有益であったと感じています。これからの未来を担う私たちが当事者意識を持って様々な社会問題に取り組んでいく必要性を実感したと同時に、現在の社会を担っている現役世代に若者の声を受け入れる姿勢を明確に示していただくことで、若者の動きも変わってくるのではないかと思います。このように、将来世代と現役世代双方の働きかけが必須であると感じていますので、今回のような両世代が交流し、意見を交わし合う場が今後ますます重要性を増してくるのではないかと思います。
16. エア・ウォーター株式会社の岸さんの言葉が心に残りました。「未来の問題は未来の人間が解決すべき」仰っており、自分たちが行動しなければ解決しない問題があると気付かされました。ミレニアル世代からの1意見ですが、まず「本当に経済成長をしなければならないか」

というところから考えるべきかなと思います。金銭的、物質的な豊かさとは離れた、本当の豊かさが問い直されてる時代だと思います。

院生

17. 先日はお話ありがとうございました。関西経済同友会の皆様の、日本経済に対する危機感の大きさを非常に強く感じたディスカッションでした。私自身も来年度より関西で働くことが決まっており、首都圏ではない地域で働くとしても「日本経済の成長」という大きな視点と志を失わずに頑張りたいと思いました。

引率教員より

このたび、経済同友会の経済政策委員会から、若い世代の意見を聞く機会を設けたいとの依頼があり、赤井ゼミの学生と、経済政策委員会の委員との間での意見交換会を持つ機会を得ることが出来た。学生にとっては、経済界の第一線で活躍しているリーダーと意見交換をすることは、滅多と無い良い機会であった。若い世代が意見を述べ社会に関わるのが大事との意見が出された一方で、若い世代には、時間を割いて関わっていく意味が実感できないというのも事実である。そのギャップをどのように埋めていくのか。高度成長期の様な成長は見込めない今、どのように幸せを定義し、それを高めていくのか。投資や成長の前に、その議論が必要なかもしれない。財政学者としては、借金を積み重ね将来世代に付けを回している今は、若い世代への説明ができないのではないと思う。若い世代に関わってほしいのはもちろんだが、それができない今は、大人世代がより一層の責任をもち、財源(現在の世代の負担)も意識した政策を考えるべきではないかと思う。

引率教員 大阪大学国際公共政策研究科教授 赤井伸郎